

平成25年度 施策達成度評価シート (24年度実績評価)

施策の柱		施策	
コード	名称	コード	名称
6	環境との共生	62	かけがえない自然との共生

評価責任者名	環境部長 中川 政則
評価シート作成者名	環境部次長 伊藤 純

1 施策の目的(目指す姿)

対象 (誰を, 何を対象としているのか)	意図 (この施策により対象をどのように変えるのか)
身近な自然, 森林・水源, 動植物	自然環境を守り, 次世代に引き継ぐ。

2 達成度

(1) 成果指標

指標名	単位	指標の性格	H23実績値	H24計画 (年度目標値)	H24実績値	H25計画 (年度目標値)	H26計画 (最終目標値)
市民アンケート調査「自然が守られていると思う」と答えた市民の割合	%	↗	80.0	60.0	84.5	61.0	62.0

(2) 近隣自治体との成果水準比較

指標名	他自治体の状況等
市民アンケート調査「自然が守られていると思う」と答えた市民の割合	他都市において, 同様の調査は行っていない。

3 達成度評価結果

取組内容と成果	○自然資源の活用 - 環境保護地区, 保護庭園の適正維持, 近郊自然歩道の安全確保のため巡視を行ったほか, 標識の修繕を行った。 - 近郊自然歩道については, 既製の各地区別マップを集約したガイドブックを作成し, 平成25年度以降, 希望する市民等に配布している。 - 継続的な活用の取組と市民への周知により, 「自然が守られている」と感じる市民の比率が着実に向上している。 ○自然の保護 - 盛岡市自然環境等保全計画の変更に向け, 平成18年度から平成23年度まで玉山区の自然環境調査を実施した。 - カラスやカルガモ等の有害鳥獣の捕獲許可, 市街地に侵入してきたクマ, ニホンジカ等の野生動物の捕獲に関する対応を行った。
成果を押し上げた要因	○自然資源の活用 - 市の取組みに対する市民の理解や身近な自然資源に触れた市民一人ひとりの意識や行動が, アンケート結果における成果として表れたものと認識している。 ○自然の保護 - 本市の恵まれた自然との共生について, 市民が意識を持ち続けていることが, アンケート結果における成果として表れたものと認識している。
目標と成果とにギャップがある場合, その要因	
これからの課題	○自然資源の活用 - 環境保護地区内の樹木に起因する事故防止のため, 所有者に対する安全管理の働きかけに力を入れる必要がある。 ○自然の保護 - 玉山区の現況等を勘案し, 盛岡市自然環境等保全計画を変更する。

4 各主体に期待する役割

	役割の内容
市	○自然資源の活用 ・現行の制度や施策を維持するとともに、近郊自然歩道整備等の市民ニーズに即した事業展開が求められる。 ○自然の保護 ・基礎調査の実施や分析及び諸施策の展開を図るとともに、市民、事業者への周知啓発に努め、自然環境の保全を推進する。
国・県・ 他自治体	○自然資源の活用 ・財源移譲等による市の施策展開への支援が求められる。 ○自然の保護 ・諸情勢の変化に対応した新たな施策を推進するとともに、情報の共有化を図る。
市民・NPO	○自然資源の活用 ・現在の自然環境を次世代に引き継ぐため、市民一人ひとりの保全に関する意識付けと、自然を守り、親しむ具体的な行動が求められる。 ○自然の保護 ・日常的な自然保護への意識付けや自然環境の保護に向けた具体の行動が求められる。
企業・その他	○自然資源の活用 ・市民の環境保全意識をサポートする企業活動が求められる。 ○自然の保護 ・事業活動を通じた自然環境への配慮が求められる。

5 成果達成への基本事業の貢献度

コード	基本事業	比重
	名称	
621	自然資源の活用	40
622	自然の保護	60

平成25年度 施策達成度評価シート (24年度実績評価・基本事業の状況)

施策の柱		施策	
コード	名称	コード	名称
6	環境との共生	62	かけがえのない自然との共生

基本事業	
コード	名称
621	自然資源の活用

評価シート作成者名	環境部次長 伊藤 純
-----------	------------

1 基本事業の目的(目指す姿)

対象 (誰を,何を対象としているのか)	意図 (この施策により対象をどのように変えるのか)
身近な自然 森林・水源	自然に親しむ機会が多くなる

2 成果指標

指標名	単位	指標の性格	H23実績値	H24計画 (年度目標値)	H24実績値	H25計画 (年度目標値)	H26計画 (最終目標値)
近郊自然歩道設置総延長	km	↗	46	50	46	46	55
市内の公立小中学校及び市立社会教育施設 で実施される自然体験,自然との共生に係る環 境教育,環境啓発事業等への参加者数	人	↗	—	※	※	※	※

※ データ取りまとめ中(8月中旬まで)

3 役割分担分析

		役割の内容	役割分担 比率(%)
各主体の 役割の状況	市	現行の制度や施策を維持するとともに,近郊自然歩道整備等の市民ニーズに即した事業展開が求められる。	40
	国・県・ 他自治体	財源移譲等による市の施策展開への支援が求められる。	10
	市民・NPO	現在の自然環境を次世代に引き継ぐため,市民一人ひとりの保全に関する意識付けと,自然を守り,親しむ具 体的な行動が求められる。	40
	企業・その他	市民の環境保全意識をサポートする企業活動が求められる。	10

平成25年度 施策達成度評価シート (24年度実績評価・基本事業の状況)

施策の柱		施策	
コード	名称	コード	名称
6	環境との共生	62	かけがえのない自然との共生

基本事業	
コード	名称
622	自然の保護

評価シート作成者名	環境部次長 伊藤 純
-----------	------------

1 基本事業の目的(目指す姿)

対象 (誰を、何を対象としているのか)	意図 (この施策により対象をどのように変えるのか)
身近な自然 森林・水源 その他(動植物)	自然が守られる

2 成果指標

指標名	単位	指標の性格	H23実績値	H24計画 (年度目標値)	H24実績値	H25計画 (年度目標値)	H26計画 (最終目標値)
市域における山林・農地等面積	ha	→	36,249.3	36,242.9	36,242.9	36,242.9	35,702.0

3 役割分担分析

		役割の内容	役割分担 比率(%)
各主体の 役割の状況	市	基礎調査の実施や分析及び諸施策の展開を図るとともに、市民、事業者への周知啓発に努め、自然環境の保全を推進する。	30
	国・県・ 他自治体	諸情勢の変化に対応した新たな施策を推進するとともに、情報の共有化を図る。	20
	市民・NPO	日常的な自然保護への意識付けや自然環境の保護に向けた具体の行動が求められる。	25
	企業・その他	事業活動を通じた自然環境への配慮が求められる。	25